

犬50匹 飼い主探し続く

2020/11/27 05:00

出雲 多頭飼育崩壊

4 愛護団体 「一匹一匹に愛情を」

出雲市の民家で160匹以上の犬が「多頭飼育崩壊」の状態にあった問題で、愛護団体や県による犬たちの新たな飼い主探しが続いている。県内外から多数の問い合わせが寄せられ、譲渡先は徐々に決まっているが、まだ約50匹が引き取り手を待っている。譲渡の作業を担う愛護団体は「一匹一匹に、愛情を注いでくれる飼い主を見つけたい」としている。（林興希）

問題は10月下旬に判明。民家の屋内で無秩序な飼育によって繁殖が進み、適切な飼育ができなくなっていた。今月10～12日には、公益財団法人「どうぶつ基金」（兵庫県芦屋市）が県や地元の愛護団体と連携し、犬161匹を連れ出して去勢・不妊手術を行った。犬たちは手術などを受けた後、県出雲保健所などで一時的に保護されている。

飼い主の募集は、県内を拠点とする4愛護団体が中心となって実施。インターネット上に専用サイトを開設し、犬たちの画像をそれぞれの名前とともに掲載し、希望者を募っている。すでに60～70匹が新たな飼い主に渡り、譲渡先の決まった犬も多いが、26日現在、50匹前後の行き先が定まっていない。

一方、少しでも早く譲渡先を見つけようと、県などは22日、個人向けの譲渡会を開催。市民ら約230人が集まり、ケージに入った犬たちを見て回った。希望者は譲渡の条件などについて説明を受け、この日だけで17匹に引き取り希望の申し込みがあったという。

県薬事衛生課の中村祥人・食品衛生グループリーダーは「多くの人に關心を持っていただき、とてもありがたい。県も新たな飼い主に譲渡を進めるべく、引き続き取り組む」と語った。

愛護団体は、家族全員の同意▽飼い主としての責任を持って終生飼育する▽譲渡後の近況報告ができる――など、14項目の譲渡条件を設けている。犬たちはこれまで主に屋内で飼われていたため、条件には、室内飼育を原則とすることも盛り込まれた。申し込み後はトライアル（試行）期間を経て、正式譲渡となる。

愛護団体の一つで島根動物愛護ネットワークの西原範正さん（46）は「新たな環境に戸惑う犬も多いと思うが、おとなしい犬ばかり。最後まで責任を持って育ててくれる人に引き取ってもらいたい」と話している。



譲渡会は29日にも、県出雲保健所（出雲市塩冶町）で午前10時～午後3時に行われる。譲渡会の問い合わせは西原さん（080・5478・6522）へ。譲渡条件などの問い合わせは、「島根県出雲市・犬多頭飼育崩壊レスキュー」の専用サイト（<https://www.dog-rescue-izumo.info/>）で応じている。